

令和7年度 保育士・保育職員 実践自己評価結果報告（公表用）

健生保育園では、保育の質の向上と透明性の確保を目的として、全保育職員（保育士・保育教諭）による自己評価を実施いたしました。年度末における本園の取り組み状況と、次年度に向けた課題を以下の通りご報告いたします。

1. 全体評価：概況

今年度の自己評価は、全体平均が4点満点中3.7点となり、昨年度と比較しても各項目で高い意識が維持されています。特に「健康・安全管理」および「保育の基本姿勢」については非常に高い水準にあり、安心・安全な保育環境の構築が着実に進んでいることが確認されました。

2. 主要項目別の分析

評価項目	平均スコア	概況
1. 保育の基本・環境構成	3.8	子どもの主体性を尊重した環境づくりが定着しており、季節や発達に応じた玩具の選定・提示が適切に行われています。
2. 子どもの発達に応じた関わり	3.6	個々の子どもの発達段階や情緒に寄り添った対応がなされています。一方で、集団の中での個別の配慮については、さらなるスキル向上の余地が見られます。
3. 健康・安全・食育	3.9	衛生管理、事故防止策、食物アレルギー対応において最も高い評価となりました。マニュアルの遵守と職員間のダブルチェックが徹底されています。
4. 保護者支援・地域連携	3.7	送迎時の積極的なコミュニケーションや、連絡帳を通じた情報の共有が評価されています。地域資源の活用については、次年度の拡大を目指します。
5. 職員間連携・自己研鑽	3.5	チーム保育における情報共有は円滑ですが、専門性を高めるための研修機会の確保や、学んだことの園内還元が今後の課題です。

3. 総評：強みと課題

【本園の強み】

- 安全管理の徹底：**全職員が「安全第一」を共通認識として持ち、事故予防や衛生管理に細心の注意を払っています。これが保護者様からの信頼の基盤となっています。
- 主体性を引き出す環境：**子どもが自ら遊びを選び、夢中になれる環境設定に力を入れており、いきいきとした園生活が実現できています。

【今後の課題と取り組み】

- 専門性のさらなる向上：**多様化する保育ニーズや特別な配慮を必要とするお子様への対応力を高めるため、園内研修の充実と外部研修への積極的な参加を推進します。
- 記録・評価の質の向上：**日々の保育記録をより深く分析し、次の保育計画（PDCA サイクル）に確実に繋げるための体制を強化します。
- 地域との交流拡大：**近隣施設や地域住民の方々との交流機会を増やし、地域に開かれた保育園としての役割をさらに広げてまいります。

4. 結びに

今回の自己評価を通じて、職員一人ひとりが自身の保育を振り返り、新たな目標を見出すことができました。結果を真摯に受け止め、次年度も子どもたち一人ひとりの笑顔と健やかな成長を支えるため、保育の質の向上に邁進してまいります。

職員自己評価レポート 2026年03月23日

実施年月

テンプレート

2026年03月23日

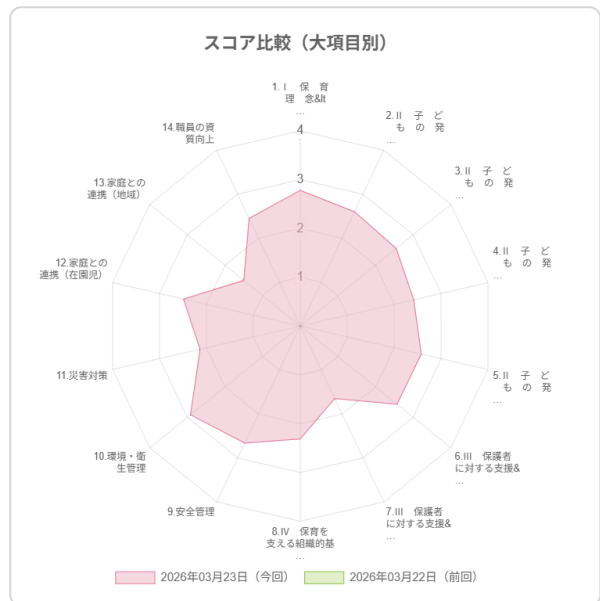
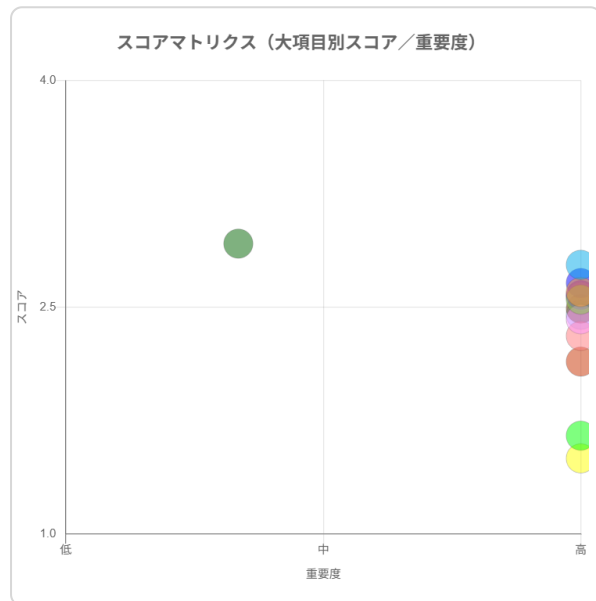
2025年度（令和7年度）保育職 年度末自己評価

表示

対象職種

- 保育士
- 保育補助
- 事務員
- 保育従事者

スコアレポート 集計単位：全体 自己評価実施人数：12人



2026年03月24日～2026年03月28日の健生保育園（全体）を振り返ると、

10 に関しては、園として重要度が高いと考えており、かつ、対象職員も理想に近い状態で実践できていました。園として重点的に力を入れていきたい項目であり、職員も方向性を理解できていることから健生保育園の強みであると言えるでしょう。

1.1 に関しては、園としては重要度が高いと考えているにも関わらず、実践できている実感が低い職員が多い傾向にあるため、早めに、各職員との 理想の状態の認識共有と、改善の取り組みを始められると良さそうです。

閉じる

まとめ 大項目ごとのスコアランキング

ランク	項目	スコア	重要度	小項目の表示
1	10.環境・衛生管理	2.92	低	非表示
1	10-1.子どもが活動しやすい様に保育室の温度、湿度、換気、採光などを適宜調整している	2.83	低	-
2	10-2.一人一人の子どもの服装、頭髪、爪などを定期的にチェックし、異常があった場合は職員間で共有している	2.92	低	-
3	10-3.感染対策を理解し、実践している	3.00	高	-
2	1.1 保育理念 子どもの最善の利益	2.78	高	非表示
1	1-1.子どもの人権に配慮し、一人一人の人格を尊重する保育を展開していますか	3.00	高	-

2	1-2.子どもの「安全に安心して生きる権利」「一人一人が尊重される権利」「豊かに育つ権利」「主体的に参加する権利」を保障し、必要な支援を行わなければならないことを知っていますか	2.92	高	-
3	1-3.あなたは日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を傷つけるなど精神的苦痛を与えたりすることがないように配慮していますか	3.08	高	-
4	1-4.一人一人の子どもの思いや欲求を受け止めて保育していますか	2.67	高	-
5	1-5.子どもに、文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てよう努めていますか	2.55	高	-
6	1-6.行動や遊び、服装、仕事など、性差への先入観による固定的な対応をしないよう配慮していますか	3.17	高	-
7	1-7.一人一人の子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っていますか	2.67	高	-
8	1-8.園の保育理念や保育方針、目標を理解していますか	2.75	高	-
9	1-9.保育のねらいや内容を保護者にわかるように説明していますか	2.25	高	-
10	1-10.子どもの最善の利益を考慮し、保護者の気持ちを受け止め保育していますか	2.55	高	-
3	9.安全管理	2.66	高	非表示
1	9-1.これまで園内で起こった事故およびヒヤリハットを理解し、定期的に報告、共有をしている	2.75	高	-
2	9-2.睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている	3.25	高	-
3	9-3.事故防止や安全管理に対する国の方針や園のマニュアルなどを理解し、実践している	2.50	高	-
4	9-4.園内の設備、玩具、用具などの点検の仕方、ポイントを理解している	2.42	高	-
5	9-5.日常的に利用する散歩経路や公園などの異常や危険などを理解し、必要に応じて点検している	2.36	高	-
4	2.II 子どもの発達援助
 1子どもの福祉を推進する事に最もふさわしい生活の場	2.60	高	非表示
1	2-1.子どもが興味関心を示し、主体的、自発的に働きかけることができるように身近な環境を整えていますか	2.45	高	-
2	2-2.清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていくよう努めていますか	2.92	高	-
3	2-3.いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保していますか	2.58	高	-
4	2-4.保育士に見守られ、安心感、安定感を持って過ごせるように努めていますか	3.00	高	-
5	2-5.園生活で、自分でできたという充実感を味わえるような体験を取り入れていますか	2.55	高	-
6	2-6.保育士や友だちと生活する中で、お互いに良さを認めあい、人と関わる力が育つような配慮をしていますか	2.58	高	-
7	2-7.子ども達のけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や社会性が育つ過程として受け止め、その育ちを見守っていますか	2.33	高	-
8	2-8.社会のルールやマナーなどが身につくような、道徳性の芽生えを培う保育をしていますか	2.50	高	-
9	2-9.あなたは必要以上に子どもに指示を出さないように配慮していますか	2.58	高	-
10	2-10.あなたは「早くしましよ」などせかさうな言葉や、「だめ」「いけません」など制止するような言葉を不必要に用いないようにしていますか	2.08	高	-
11	2-11.子どもが危険な場所や危険な遊びがわかるように指導したり、安全についての心構えを話したりしていますか	2.92	高	-
12	2-12.子どものその日の様子を確実な方法により職員間で伝達していますか	2.67	高	-
5	5.II 子どもの発達援助
 4 環境を通して行う保育	2.58	高	非表示
1	5-1.あなたは、声の大きさに気をつけ、わかりやすい、心を込めた温かな言葉づかいでゆっくりと話すようにしていますか	2.58	高	-
2	5-2.子どもが感じたことや思いをその子なりに言葉で表現したり、人の話を聞くことの楽しさや伝え合ったりする喜びを味わうことができるよう配慮していますか	2.75	高	-
3	5-3.子どもが十分に身体を動かして遊びを楽しむことができるように、日頃から環境を整えるなどの機会を多く取り入れていますか	2.83	高	-
4	5-4.子どものやりたいという思いや意欲を大切に、様々な表現を楽しめるような環境を整えていますか	2.42	高	-
5	5-5.心の安らぎや豊かな感情を体験できるように、自然との触れ合いや社会との関わりを大切にしていますか	2.67	高	-
6	5-6.子どもが生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れることができるような機会をつくっていますか	2.42	高	-
7	5-7.人的環境、物的環境さらには自然や社会の事象などの環境が、相互に関連し合い子どもの生活が豊かになるよう、計画的に環境構成をしていますか	2.18	高	-
8	5-8.長時間にわたる保育の引継ぎの際には、職員間での情報の伝達を適切に行っていますか	2.75	高	-
6	6.III 保護者に対する支援
 1 家庭との緊密な連携	2.57	高	非表示

1	6-1.個々の子どもの、家庭での保育方針を把握していますか	1.80	高	-
2	6-2.保護者とともに子どもの成長の喜びを共有していますか	2.70	高	-
3	6-3.保護者の意見や考えを丁寧に聞き、必要と思う内容については保育に取り入れようとしていますか	2.56	高	-
4	6-4.子育てに関して、保護者と共通理解を得るための話し合いをもっていますか	1.86	高	-
5	6-5.保育の内容について、保護者にわかりやすく丁寧に伝えていきますか	2.38	高	-
6	6-6.子どものその日の様子を保護者に伝え、相互理解を図るようにしていますか	2.50	高	-
7	6-7.送り迎えのときには、保護者に挨拶したり、言葉を交わしたりしていますか	3.36	高	-
8	6-8.保護者の子育て相談など、安心して話せるような雰囲気作りをしていますか	2.70	高	-
9	6-9.保護者の相談を自分一人で抱え込まないで、他の職員や園長に相談するようにしていますか	3.20	高	-
10	6-10.児童相談所や地域の関係機関、病院などの専門機関に相談や連携をとる体制について理解していますか	2.30	高	-
7	3. II 子どもの発達援助
 2 生活と発達の連続性	2.55	高	非表示
1	3-1.乳幼児期は、生涯にわたる「生きる力」の基礎が培われる時期であることを理解して保育していますか	2.75	高	-
2	3-2.子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけた新たな能力を獲得していく過程であることを理解していますか	2.83	高	-
3	3-3.子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」を考慮した保育をしていますか	2.33	高	-
4	3-4.子どもはそれまでの体験を基にして、環境に働きかけ、様々な環境と相互作用により発達していくことを理解していますか	2.75	高	-
5	3-5.子どもと生活や遊びを共にするなかで、一人一人の心身の状況を把握していますか	2.83	高	-
6	3-6.心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握していますか	2.58	高	-
7	3-7.特別な支援を必要とする子どもに対しても、その子どもに応じた適切な援助及び環境構成を行い、子ども同士の関わりに配慮し、共に育ちあえるようにしていますか	2.55	高	-
8	3-8.障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけていますか	2.00	高	-
9	3-9.必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けていますか	1.50	高	-
10	3-10.保育所は子どもがその生活時間の大半を過ごす場であることの意味を理解していますか	3.00	高	-
11	3-11.家庭と保育園での連続性を踏まえた生活となっていますか	2.50	高	-
12	3-12.入園から卒園までの連続性を踏まえた保育をしていますか	2.42	高	-
13	3-13.就学に向け、保育園の子どもと小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報の共有や相互理解など小学校との連携を図っていますか	1.67	高	-
8	12.家庭との連携（在園児）	2.49	高	非表示
1	12-1.保護者のお迎え時、活動内容を伝えるだけでなく、学びや成長の変化を伝えることが出来ている	2.75	高	-
2	12-2.保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在となれるよう心掛け、対応している	2.70	高	-
3	12-3.日頃より保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	2.55	高	-
4	12-4.家庭の状況を把握するため保護者と情報交換を行い、必要に応じて関係職員と共有している	2.29	高	-
5	12-5.園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを、定期的（月1回程度）に発行している	1.33	高	-
9	14.職員の資質向上	2.45	高	非表示
1	14-1.園内・外で行われる研修や会議に積極的に参加し、資質向上を図っている	2.08	高	-
2	14-2.個人の自己評価などで課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	2.58	高	-
3	14-3.定期的に保育に関する専門書や関係書を読むなど、保育知識を習得するよう努めている	1.92	高	-
4	14-4.自身の保育実践について、自ら上司や同僚のアドバイスをもらうよう努め、成長しようとしている	2.92	高	-
5	14-5.園で決定した方針が自身の意見と違うときに、直接その理由を聞いたり、広い視野を持って前向きに考えるようにしている	2.75	高	-
10	4. II 子どもの発達援助
 3 養護と教育の一体的展開	2.42	高	非表示
1	4-1.「養護」と「教育」に関わる目標を目指した保育を行っていますか	2.25	高	-
2	4-2.「養護」とは、子どもの生命の保持と情緒の安定を図るための、援助や関わりであることを理解していますか	2.42	高	-
3	4-3.「教育」とは、子どもが健やかに成長し、活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解していますか	2.58	高	-

4	4-4.「養護」が基礎となって5領域における活動や体験が展開していくことを理解していますか	2.58	高	-
5	4-5.養護及び教育に関わる「ねらい」及び「内容」を踏まえ、養護と教育が一体となった保育を展開していますか	2.25	高	-
11	8.IV 保育を支える組織的基盤
 1 健康及び安全の実施体制	2.31	高	非表示
1	8-1.子どもが意欲的に食に関する体験ができるよう、具体的な食育計画を作成している	1.60	高	-
2	8-2.乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	2.67	高	-
3	8-3.保護者と連携し、個々の食物アレルギーなどの情報共有を定期的に行っている	2.50	高	-
4	8-4.子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	1.80	高	-
5	8-5.園での食育活動をお便りや連絡帳などを活用して保護者に周知している	2.43	高	-
12	11.災害対策	2.14	高	非表示
1	11-1.災害に対する園の方針などを十分に理解している	2.08	高	-
2	11-2.園の災害対応マニュアルの内容を十分に理解している	2.08	高	-
3	11-3.消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている	2.58	高	-
4	11-4.保護者との連絡体制や引渡し方法のルールが明確で、それらを十分に理解している	2.00	高	-
5	11-5.ハザードマップを理解し、地震や豪雨の際の園から避難場所への適切な避難経路を把握している	1.92	高	-
13	7.III 保護者に対する支援
 2 地域における子育て支援	1.65	高	非表示
1	7-1.地域の子育て支援の取組を理解し、園の資源や保育士としての専門性をいかしていますか	1.82	高	-
2	7-2.地域の子育て家庭に子育てに関する情報等を提供していますか	1.33	高	-
14	13.家庭との連携（地域）	1.50	高	非表示
1	13-1.関係者評価や自治体など、地域の子どもについての保育ニーズを把握している	1.67	高	-
2	13-2.園の活動や行事に地域の人々の参加を呼びかけるなど、地域交流できる機会を確保している	1.33	高	-
3	13-3.地域住民から受けた子育て相談の内容について連絡、相談する外部の関係機関を把握している	1.44	高	-

【10.環境・衛生管理】の面では、各自が理想に近い形で実践できた実感があるようです。

園全体の様子を振り返った際、職員たちと同様に「理想に近い状態で実践できた」と感じられるようであれば、園として目指している目標と、職員の考えている理想のイメージが共有できており、とても良い状態であると言えます。

各職員に対しては出来る範囲でフィードバックの時間をとり、出来ていた点をいくつか具体的に挙げながら、現状の維持、そして今後のさらなる向上に向けてモチベーションを保つ時間がとれると良いでしょう。

しかし、もしも、園全体を振り返ってみると、園全体としては実現度合いが低かった、職員の振り返り結果との間に差異を感じる、という場合には、園の目標と、各職員のイメージがズレている可能性が高いです。

一度、各職員とコミュニケーションの機会をとり、目標の再確認をした上で、具体的な行動を示しながら「園として求める姿」を共有していく時間を持つことをおすすめします。

一方で

【13.家庭との連携（地域）】の面では、実践が難しい、もしくは実践できていないと感じる職員が多い傾向にあるため

各職員とのコミュニケーションをとる際に、【13.家庭との連携（地域）】の中で、具体的に難しさ・やりづらさを感じる点があるかを確認しながら一緒に解決策を考えていく時間がとれると良いでしょう。

また、もしも、園全体を振り返った時に【13.家庭との連携（地域）】が、他の項目に比べて実践レベルが高いようであれば、

同時に「園の求めるレベルに達していること」をフィードバックしながら、「誉める・認める・感謝する」言葉をしっかりと伝えることがおすすめです。